様式第１号

自己評価票

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 市町村名 |  | 園名 |  |
| 所属長名 | 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 | 受講者番号 |  | 受講者名 |  |

　『保育者育成指標』（Ｐ８、９参照）に対する「自己の達成規準」を作成し、４段階で評価して自己の保育実践を振り返りましょう。　※作成した自己の達成規準が（４：十分できている）になった場合は、状況に応じて、次のステージ【中堅保育者（10年以上）】を意識して、達成規準を作成してみましょう。

|  |  |
| --- | --- |
| **キャリアステージ** | 中堅ステージ |
| **高知県が各ステージ終了までに****求める姿****【５年～10年未満の保育者】** | 【保育者としての資質を磨く】身につけた知識や技術を生かし、実践力を高める工夫をする |

**評価　４：十分できている 　３：だいたいできている　　２：あまりできていない　　１：できていない**

※「自己の達成基準」は『高知県教育・保育の質向上ガイドライン【改訂版】（令和４年）』の「５年～10年未満の保育者」などを参考に作成しましょう。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 資質・指導力 | 保育者育成指標の行動目標並びに指標に対する「自己の達成規準」 | 自己評価 | 所属長評価(２月) |
| (５月) | (２月) |
| Ａ　指導力向上に向けての自己診断 | ① | 子どもの主体的な学びを保障するための環境構成を行う力（環境の構成） | いろいろな環境を生かしながら、実践を展開することを楽しんで行う |
|  |  |  |  |
| ② | 一人一人の子どもの特性や発達、ねらい等に適した援助を行う力（援助） | 個と集団の育ちを意識して、一人一人の特性や発達を捉え、必要な援助を行う |
|  |  |  |  |
| ③ | ねらいに沿って指導を適切に展開し、改善する力（指導計画の作成と保育展開・評価） | 日々の実践を通して、年間指導計画のねらいや内容、環境の構成、援助を見直していく |
|  |  |  |  |
| ④ | 地域の資源を活用し、指導の充実を図る力（地域との連携） | 地域の資源を生かし、自らの保育を豊かにしていく |
|  |  |  |  |
| ⑤ | 保護者や必要な機関と連携を取りながら一人一人の育ちを支える力（関係諸機関との連携） | 記録や評価を的確に行い、実態に応じた対応・学級経営・協力体制づくりを行うため、専門的知識をもって関係機関と連携する |
|  |  |  |  |
| ⑥ | 発達や学びの連続性を見通し、指導する力（保幼小の連携・接続） | 小学校等との円滑な接続の必要性を理解し、学びや発達を見通した計画及び実践を行う |
|  |  |  |  |
| 資質・指導力 | 保育者育成指標の行動目標並びに指標に対する「自己の達成規準」 | 自己評価 | 所属長評価(２月) |
| (５月) | (２月) |
| Ｂ　親育ち支援力に関する自己診断 | ⑦ | 在園児の保護者に対して子育てを支援する力（保護者への支援） | 保護者の相談を受容的に受け止め、適切な助言をする |
|  |  |  |  |
| ⑧ | 地域の子育て家庭等を支援する力（地域における子育て支援） | 園を訪れる地域の保護者等に対して、親しみをもって応じ、気持ちよく利用できるような雰囲気づくりをする |
|  |  |  |  |
| Ｃ　園の運営力・組織貢献力に関する自己診断 | ⑨ | 学級経営に関わる事務を的確に処理する力（学級経営） | 担任としての学級経営に関する責任を果たすとともに、他の職員の相談にのり、助言をする |
|  |  |  |  |
| ⑩ | 園務分掌とその内容を理解し、企画・立案する力（園務分掌） | 園務についての理解を深め、後輩の指導をしながら組織の一員として園務の遂行に努める |
|  |  |  |  |
| ⑪ | 上司や同僚と協働して、円滑に園務を遂行できる力（職員間の連携） | 同僚からの相談に応じて、適切な助言をする |
|  |  |  |  |
| Ｄ　危機管理に関する自己診断 | ⑫ | 子どもが安心して過ごす事ができる施設や遊具等の安全な環境を整える力（安全管理） | 園全体の危機管理を理解し、より安心して、より安全に生活できる環境を工夫し、改善に努める |
|  |  |  |  |
| ⑬ | 家庭や地域と連携し、子どもが危険から身を守り、安全に行動できるように指導する力（安全教育） | 家庭や地域と連携を図りながら、安全や命を守るために指導を行う |
|  |  |  |  |
| Ｅ　保育者としての姿勢 | ⑭ | 保育者として自分の課題を発見し、自己研鑽していく力（自己研鑽） | 自己課題をもって研修に参加するとともに、園内研修において後輩と園長等の考えをつなぐ |
|  |  |  |  |
| ⑮ | 乳幼児期の発達や学びを踏まえた教材の研究をする力（教材研究） | 個々の育ちに応じた保育が展開されるための教材の準備をするとともに、後輩の相談にも応じる |
|  |  |  |  |

**所属長所見（２月に記入）**

|  |
| --- |
| 印　 |